日本私立大学連盟と医科大学・医学部

ずいそう

私どもの学園すなわち学校法人獨協学園は、文系の獨協大学と、獨協医科大学、文系プラス医療系の姫路獨協大学、および二つの中学・高校で構成されている。今回、寄稿を依頼され、さて何を書こうかと思ったが、以前から感じていた日本私立大学連盟（私大連）と医科大学・医学部の関係について少し書いてみようと思いたった。それというのも、本誌においても医学部系の記事は少なく、昨年9月号に珍しく姫路獨協大学の森田せつ子看護学部長が書かれたものくらいしか目にとまらなかったこと、そもそも私大連の議題でも医学部関係のものが少ないことなどが少し気になっていたからである。もう一つ気になるのは、最近いくつかの医科大学が私大連から退会していることである。もちろん、医科大学は入学定員が基本的に100人であり（現在は地方枠で一時的に約20人増加しているが）、私大連にとって微々たるものといえばその通りなのである。

しかし、いくつかの病院を擁する医科大学（医学部）は、3000人以上の教職員を抱えているのである。財務に関しても、医科大学関係は、年間500億円以上の規模であることは一般には知られていないらしい。年間の財務の序列を見れば、私立大学の上位10校中7校は医学部を抱えている。医学部系が退会する理由の一つに、そもそも勤務体系が全く異なることも挙げられよう。特に、病院で患者さんを診ている臨床系教員たちのすさまじいまでの勤務状況は、共に議論する基盤を有していない。筆者の経験でも、教育、研究をも含めて、議論がほとんどかみ合わないのである。もちろん、文部科学省を中心とした官公庁からの情報は私大連を通じていただくので、その限りにおいては大変ありがたい存在と思う。

もっとも、こうした面においては、全国29の私立医科大学は日本私立医科大学

協会という組織に属しており、必要な情報はこの組織を通じて入手している。運営も極めて民主的であり、会長や理事を特定の大学が独占することはない。文部科学省や厚生労働省あるいは内閣府とも十分な交流はあり、少なくとも医科大学にとって不便を感じることはない。おそらく、これらの理由によって退会した医科大学もあるように思われる。

もちろん、総合大学では医学部以外の学部があることは当然であるから、私大連の恩恵は受けているはずである。従って、筆者の学園でも退会を考えたことはない。ただ心配なことは、私大連の将来にとってこのままでいいのかどうかということであり、民主的な形で再考していただければ幸いである。

ついでに書かせていただけるならば、先般の入学定員と新学部・大学院設置の関係についてである。これは私立大学にとって極めて重要な事項であり、経営と教育・研究が真っ正面からぶつかり合うものであり、政府の無謀な方策を私大連として糾弾すべきではなかったかと思われる。筆者の大学でも、大学院などを新設しようとしていた矢先のことであり、突然の政策変更に憤慨せざるを得なかったことは付け加えておきたい。

この短文で、誤解のあることは承知しているが、医科大学から見た私大連への感想の一つと考えていただければ幸いである。

寺野 彰●学校法人獨協学園理事長、獨協医科大学名誉学長、日本私立医科大学協会会長